

政治結社心塾  
政治結社三和塾大阪府  
政治結社三和塾京都  
政治結社至誠会  
政治結社修心塾総本部  
政治結社正氣塾官庁本部  
政治結社大國神風會  
政治結社大日本菊會  
政治結社大日本愛國同志會  
政治結社同志社同志團  
政治結社日本信和会  
政治結社日本誠志社  
政治結社不動塾  
青史塾  
政治団体新思想研究社  
青年政治研究会  
全国被害者救済同盟  
全国法令遵守推進わかばの会  
大照同志会  
大日本國士会  
大日本慶慶会  
勅使会  
東京修山会  
東京西武会  
日本愛する会  
日本環境対策協議会  
日本新進党  
日本政治文化研究会  
日本の進路21  
日本補聴器関連団体政治連盟  
兵庫県中小企業連合会  
北雁会  
南九州府を創る会  
リカバリー・ジャパン  
六輪社

○総務省告示第二百七十五号  
政治資金規正法(昭和二十三年法律第九十四号)第十九条第二項の規定による資金管理団体の届出があったので、同法第十九条の二第一項の規定に基づき、その名称等を次のとおり公表する。  
平成二十四年七月二十三日  
総務大臣 川端 達夫

政治結社三和塾大阪府 箕輪 祥二 二二、三、一〇  
政治結社三和塾京都 高井 和彦 二二、二、二五  
政治結社至誠会 森 孝太郎 二四、四、一〇  
政治結社修心塾総本部 表野 隆志 二二、二、三一  
政治結社正氣塾官庁本部 大関 修右 二四、三、一四  
政治結社大國神風會 黒瀬 芳史 二二、八、二〇  
政治結社大日本菊會 矢野 豪 二二、五、一六  
政治結社大日本愛國同志會 棚原 淳也 二二、一〇、九  
政治結社同志社同志團 野島 正章 二二、二、三一  
政治結社日本信和会 行木 義雄 二二、四、二〇  
政治結社日本誠志社 本吉 昭徳 二二、三、二七  
政治結社不動塾 岩井 幸市 二二、二、三一  
青史塾 福田 嘉博 二二、一〇、七  
政治団体新思想研究社 稲野 利夫 二二、四、一三  
青年政治研究会 林 隆広 二二、二、三一  
全国被害者救済同盟 林 秀雄 二二、二、三一  
全国法令遵守推進わかばの会 植木 孝 二二、三、一九  
大照同志会 中村 伸二 二二、三、二七  
大日本國士会 井之口 哲也 二二、二、三一  
大日本慶慶会 大谷 慶植 二二、四、五  
勅使会 藤井 剛己 二二、三、二八  
東京修山会 高鳥 修 二二、三、一九  
東京西武会 西岡 永子 二二、四、五  
日本愛する会 橋間 実 二二、四、一  
日本環境対策協議会 藤本 真也 二二、三、三一  
日本新進党 橋間 実 二二、四、一  
日本政治文化研究会 松岡 慎太郎 二二、五、二  
日本の進路21 米 正則 二二、四、三  
日本補聴器関連団体政治連盟 東 征二 二二、三、三一  
兵庫県中小企業連合会 大西 秀志 二二、三、七  
北雁会 飯島 夕雁 二二、九、五  
南九州府を創る会 米良 充典 二二、三、三  
リカバリー・ジャパン 小笠原 賢一 二二、四、二  
六輪社 林 進 二二、三、二七

○総務省告示第二百七十六号  
政治資金規正法(昭和二十三年法律第九十四号)第十九条第三項の規定による資金管理団体の届出事項の異動の届出があったので、同法第十九条の二第一項の規定に基づき、次のとおり公表する。  
平成二十四年七月二十三日  
総務大臣 川端 達夫

資金管理団体の届出事項の異動の届出をした者の氏名  
公職の種類  
資金管理団体の名称  
異動事項  
新  
旧

葛西 孝彦 参議院議員 あおいかぜの会 東京都中野区中野二 葛西 孝彦 二四、五、一〇  
橋間 実 衆議院議員 日本新進党 福岡県大野城市御笠川 橋間 実 二四、四、六  
森田 裕介 衆議院議員 もりた組 東京都渋谷区神泉町二 森田 裕介 二四、五、二二  
○総務省告示第二百七十七号  
政治資金規正法(昭和二十三年法律第九十四号)第十九条第三項の規定による資金管理団体の届出事項の異動の届出があったので、同法第十九条の二第一項の規定に基づき、次のとおり公表する。  
平成二十四年七月二十三日  
総務大臣 川端 達夫

上野賢一郎 衆議院議員 うえの賢一郎・政経フォーラム 主たる事務所 滋賀県彦根市本町 二一、五、二  
佐藤 茂樹 衆議院議員 友樹会 主たる事務所 大阪府大阪市西成区岸里三 一一、二、二八  
鈴木 孟 東京都議会 中国残留婦人後援会 主たる事務所 神奈川県横浜市鶴見区鶴見中央四 一一、二、二八  
橋間 実 大野城市議 日本新進党 代表者の氏名 橋間 実 山口 実  
平山 誠 参議院議員 ニッポンネット ワーク 主たる事務所 東京都千代田区永田町二 一一、一、一  
松本 和巳 衆議院議員 パイオニア政策研究会 主たる事務所 東京都渋谷区猿樂町二 二四、一、一六

○厚生労働省告示第四百三十八号  
歯科口腔保健の推進に関する法律(平成二十三年法律第九十五号)第十二条第一項の規定に基づき、歯科口腔保健の推進に関する基本的事項を次のように定めることとしたので、同条第四項の規定に基づき公表する。  
平成二十四年七月二十三日  
厚生労働大臣 小宮山洋子

歯科口腔保健の推進に関する基本的事項  
この基本的事項は、高齢化が進む中で将来を見据え、乳幼児期からの生涯を通じて歯科疾患の予防、口腔機能の獲得・保持等により、全ての国民が心身ともに健やかで心豊かな生活ができる社会を実現することを目的に、保健、医療、社会福祉、労働衛生、教育その他の関連施策及びその関係者との相互連携を図り、歯科疾患の予防等による口腔の健康の保持(以下「歯科口腔保健」という。)に関する国及び地方公共団体の施策等を総合的に推進するための基本的な事項を示すものである。

資金管理団体の届出をした者の氏名  
公職の種類  
資金管理団体の名称  
主たる事務所の所在地  
代表者の氏名  
届出年月日

明彦 衆議院議員 岡明彦を応援する会 愛知県名古屋市区西区浅岡 明彦 二四、四、二三  
問二一七一一三

第一 歯科口腔保健の推進のための基本的な方針

一 口腔の健康の保持・増進に関する健康格差の縮小

口腔の健康の保持・増進が、健康で質の高い生活を営む上で基礎的かつ重要な役割を果たしていることから、歯科口腔保健に関する施策の推進を通じて国民保健の向上を図る。

口腔の健康の保持・増進は、国民が主体的に取り組むべき課題であるが、国民一人一人が行う取組に加え、家庭、学校、職場、地域（保健所、市町村保健センター等）、医療機関（病院歯科・歯科診療所を含む）、障害者支援施設、障害児入所施設、介護保険施設等を含めた社会全体としてもその取組を支援し、さらに、歯科医師、歯科衛生士等が行う指導・助言・管理等により口腔の健康の保持・増進に関する健康格差（地域や社会経済状況の違いによる集団間の健康状態の差をいう。以下同じ。）の縮小を実現する。そのための取組を適切かつ効果的に行うために、ライフステージごとの特性等を踏まえつつ、生涯を通じた切れ目のない歯科口腔保健に関する施策を展開することが重要である。また、平成元年（1989年）より80歳で20本以上の歯を残すことをスローガンとして取り組んできた「8020（ハチマルニイマル）運動」は、すべての国民の生涯を通じた口腔の健康及び口腔機能の維持・向上の観点から更に推進していくこととする。

二 歯科疾患の予防

う蝕、歯周病等の歯科疾患がない社会を目指して、広く国民に歯科疾患の成り立ち及び予防方法について普及啓発を行うとともに、健康を増進する一次予防に重点を置いた対策を総合的に推進する。

また、歯科疾患の発症のリスクが高い集団に対する取組や環境の整備等により生活習慣の改善等ができるようにする取組等を組み合わせることにより、歯科疾患の予防を実現する。

三 生活の質の向上に向けた口腔機能の維持・向上

食べる喜び、話す楽しみ等のQOL（生活の質）の向上を図るためには、口腔機能の維持・向上が重要である。高齢期においては摂食・嚥下等の口腔機能が低下しやすいため、これを防ぐためには、特に、乳幼児期から学齢期（満六歳に達した日の翌日以後における最初の学年の初めから満二十歳に達するまでの期間をいう。以下同じ。）にかけては良好な口腔・顎・顔面の成長発育及び適切な口腔機能の獲得が、成人期から高齢期にかけては口腔機能の維持・向上を図っていくことが重要である。具体的には、口腔機能の健全な育成、口腔機能に影響を与える習癖等の改善、口腔機能訓練等に関する歯科保健指導等が効果的である。

四 定期的に歯科検診又は歯科医療を受けることが困難な者に対する歯科口腔保健

障害者・障害児、要介護高齢者等で、定期的に歯科検診（健康診査及び健康診断を含む。以下同じ。）又は歯科医療を受けることが困難な者に対しては、その状況に応じた支援をした上で歯科疾患の予防等による口腔の健康の保持・増進を図っていく必要がある。

五 歯科口腔保健を推進するために必要な社会環境の整備

歯科口腔保健に関する施策を総合的に推進していくため、国及び地方公共団体に歯科専門職である歯科医師、歯科衛生士及び歯科技工士を配置すること、また、地方公共団体に、歯科医療又は保健指導に係る業務に従事する者等に対する情報の提供、研修の実施その他の支援を行う口腔保健支援センターを設置することが望ましい。

また、歯科に関する疾患の早期発見及び早期治療を行うため、定期的に歯科に係る検診を受けることの勧奨を行うための支援体制の整備が必要である。

第二 歯科口腔保健を推進するための目標・計画に関する事項

口腔の健康の保持・増進に関する健康格差の縮小を目指して、国は、第一の二から五までについて、それぞれアウトカムとしての目標及びプロセスとしての計画を設定する。

一 目標・計画の設定及び評価の考え方

国は、歯科口腔保健にかかわる多くの関係者が共通の認識として持つ科学的根拠に基づいた、実態把握が可能であり、かつ、具体的な目標を設定することを原則とする。

具体的な目標・計画については、おおむね10年後を達成時期として設定することとし、「歯科疾患の予防」及び「生活の質の向上に向けた口腔機能の維持・向上」のための目標・計画は、ライフステージごとの特性を踏まえたものとする。

また、設定した目標については、継続的に数値の推移等の調査及び分析を行い、計画及び諸活動の成果を適切に評価することで、設定した目標の達成に向け必要な施策を行うよう努める。

さらに、歯科口腔保健の推進にかかる施策の成果については、基本的事項の策定後5年を目途に中間評価を行うとともに、10年後を目途に最終評価を行うことにより、目標を達成するための計画及び諸活動の成果を適切に評価し、その後の歯科口腔保健の推進にかかる施策に反映させる。

二 歯科口腔保健を推進するための目標・計画

国が国民の歯科口腔保健について設定する具体的な目標・計画は、別表第一から別表第四までに掲げるものとし、国はこれらの目標・計画に基づき、歯科口腔保健の推進に取り組むとともに進行管理を行っていくものとする。

1 口腔の健康の保持・増進に関する健康格差の縮小に関する目標・計画

口腔の健康の保持・増進に関する健康格差の縮小は、生活習慣の改善や社会環境の整備によって我が国全体として実現されるべき最終的な目標である。

本基本的事項において、口腔の健康の保持・増進に関する健康格差の縮小に関する具体的な目標は特に設定しないが、次の2から5までに掲げる目標・計画を達成すること等により実現を目指すこととする。

2 歯科疾患の予防における目標・計画

う蝕、歯周病等の歯科疾患はライフステージごとの特性を踏まえ、乳幼児期学齢期、妊産婦である期間を含む成人期、高齢期に分けて目標・計画を設定する。

(1) 乳幼児期

健全な歯・口腔の育成を目標に設定し、その実現を図るため、歯科疾患等に関する知識の普及啓発、食生活及び発達の程度に応じた歯口清掃に係る歯科保健指導並びにう蝕予防のための取組等に関する計画の具体的項目を設定する。

(2) 学齢期

口腔状態の向上を目標に設定し、その実現を図るため、歯科疾患及び口腔の外傷等に関する知識の普及啓発、食生活及び歯口清掃に係る歯科保健指導並びにう蝕及び歯周病を予防するための取組等に関する計画の具体的項目を設定する。

(3) 成人期（妊産婦である期間を含む。）

健全な口腔状態の維持を目標に設定し、その実現を図るため、歯周病と糖尿病・喫煙・早産等との関係性に関する知識の普及啓発、食生活及び歯口清掃に係る歯科保健指導、う蝕及び歯周病の予防並びに生活習慣の改善（禁煙等）のための取組等に関する計画の具体的項目を設定する。

(4) 高齢期

歯の喪失防止を目標に設定し、その実現を図るため、根面う蝕、口腔がん等に関する知識の普及啓発、食生活及び歯口清掃に係る歯科保健指導並びにう蝕及び歯周病を予防するための取組等に関する計画の具体的項目を設定する。

3 生活の質の向上に向けた口腔機能の維持・向上における目標・計画

生活の質の向上に向けた口腔機能の維持・向上は、ライフステージごとの特性を踏まえ、乳幼児期から学齢期、また、成人期から高齢期に分けて目標・計画の具体的指標及び項目を設定する。

## (1) 乳幼児期及び学齢期

・口腔機能の獲得を目標に設定し、その実現を図るため、口腔・顎・顔面の成長発育等に関する知識の普及啓発、口腔機能の獲得に影響を及ぼす習癖等の除去、食育等に係る歯科保健指導等に関する計画の具体的項目を設定する。

## (2) 成人期及び高齢期

口腔機能の維持・向上を目標に設定し、その実現を図るため、口腔の状態と全身の健康との関係等に関する知識の普及啓発、義歯の手入れを含む歯口清掃及び食育等の歯科保健指導並びに口腔機能の維持・向上に関する取組の推進に関する計画の具体的項目を設定する。

## 4 定期的に歯科検診又は歯科医療を受けることが困難な者に対する歯科口腔保健における目標・計画

定期的に歯科検診又は歯科医療を受けることが困難な障害者・障害児、要介護高齢者等については、定期的な歯科検診・歯科医療に関する目標を設定し、その実現を図るため、定期的な歯科検診・歯科医療に関する実態の把握、実態に即した効果的な対策の実施、歯科疾患及び医療・介護サービス等に関する知識の普及啓発等に関する計画の具体的項目を設定する。

## 5 歯科口腔保健を推進するために必要な社会環境の整備における目標・計画

歯科口腔保健の推進体制の整備に向けた目標を設定し、その実現を図るため、歯科に係る検診の勧奨及び実施体制の整備、口腔保健支援センターの設置並びに研修の充実等に関する計画の具体的項目を設定する。

## 第三 都道府県及び市町村の歯科口腔保健の基本的事項の策定に関する事項

## 一 歯科口腔保健推進に関する目標・計画の設定及び評価

都道府県は、歯科口腔保健の推進に関する法律等に基づき講ぜられる歯科口腔保健の推進に関する施策につき、市町村等の関係機関・関係者との円滑な連携の下に、それらの総合的な実施のための方針、目標・計画その他の基本的事項を定めるよう努めなければならない。

また、都道府県及び市町村は、歯科口腔保健の基本的事項の策定に当たり、第二に掲げた国が国民の歯科口腔保健について設定する目標・計画、ライフステージの区分、設定期間等を勘案しつつ、地域の状況に応じて、独自に到達すべき目標・計画等を設定する。また、設定した目標については、継続的に数値の推移等の調査及び分析を行い、計画及び諸活動の成果を適切に評価することで、設定した目標の達成に向け必要な施策を行うよう努める。さらに、中間評価及び最終評価を行うこと等により、定期的に、目標を達成するための計画及び諸活動の成果を適切に評価するとともに必要な改定を行い、その後の歯科口腔保健の推進に係る施策に反映させるよう努めるものとする。

## 二 目標・計画策定の留意事項

都道府県及び市町村における歯科口腔保健の基本的事項の策定に当たっては、次の事項に留意する必要がある。

- 1 都道府県は、市町村、医療保険者、学校保健関係者、産業保健関係者等の一体的な取組を推進する観点から、これらの関係者の連携の強化について中心的な役割を果たすとともに、地域の実情に基づいた歯科口腔保健の基本的事項を策定するよう努めること。また、地域における歯科口腔保健に関する情報等を広域的に収集・精査するための体制を整備し、その情報を市町村等へ提供するよう努めること。
- 2 保健所は、所管区域に係る歯科口腔保健に関する情報を収集、管理及び分析し、提供するとともに、地域の実情に応じ、市町村における基本的事項策定の支援を行うよう努めること。
- 3 市町村は、歯科口腔保健の基本的事項を策定するに当たっては、都道府県と連携しつつ策定するよう努めること。
- 4 都道府県及び市町村は、目標・計画の設定及び評価において、調査分析等により実態把握が可能であって科学的根拠に基づいた具体的目標を設定し、また、障害者・障害児、要介護高齢者等で、定期的に歯科検診又は歯科医療を受けることが困難なものやその家族を含めた地域の住民が主体的に参加し、その意見を積極的に反映できるよう留意するとともに、地域の実情に応じて、保健、医療又は福祉に関する団体、研究機関、大学等との連携を図るよう努めること。

5 都道府県及び市町村は、基本的事項の策定に当たっては、健康増進法（平成14年法律第103号）に規定する都道府県健康増進計画、地域保健法（昭和22年法律第101号）に規定する地域保健対策の推進に関する基本指針、都道府県が策定する医療法（昭和23年法律第205号）に規定する医療計画、高齢者の医療の確保に関する法律（昭和57年法律第80号）に規定する都道府県医療費適正化計画、介護保険法（平成9年法律第123号）に規定する都道府県介護保険事業支援計画及びがん対策基本法（平成18年法律第98号）に規定する都道府県がん対策推進計画等との調和に配慮すること。

## 第四 調査及び研究に関する基本的な事項

## 一 調査の実施及び活用

国は、歯科口腔保健を推進するための目標・計画を適切に評価するため、その設定期間や評価の時期を勘案して、原則として5年ごとに歯科疾患実態調査等を実施する。

また、国、地方公共団体等は、歯科疾患実態調査、国民健康・栄養調査、学校保健統計調査、健康診査及び保健指導の結果、診療報酬明細書その他の各種統計等を基に、個人情報の保護に留意しつつ、現状分析を行うとともに、これらを歯科口腔保健の推進に関する施策の評価に十分活用する。

さらに、地方公共団体等は、得られた情報を歯科口腔保健の推進に活用できる形で地域住民に提供できるよう努めるものとし、国は、各地域で行われている施策等を把握し、国民等に対し情報提供するとともに、評価を行うものとする。

## 二 研究の推進

国及び地方公共団体は、効果的な国民の歯科口腔保健の状況の改善に資するよう、口腔の状態と全身の健康との関係、歯科疾患と生活習慣との関係、歯科口腔保健と医療費との関係及び歯科疾患に係るより効果的な予防・治療法等についての研究を推進し、その研究結果の施策への反映を図るとともに、国民等に対し的確かつ十分に情報提供するものとする。

この際、個人情報について適正な取扱いの厳格な実施を確保することが必要であることを認識し、個人情報の保護に関する法律（平成15年法律第57号）、行政機関の保有する個人情報の保護に関する法律（平成15年法律第58号）、統計法（平成19年法律第53号）、個人情報の保護に関する法律の趣旨を踏まえて制定される地方公共団体の条例等を遵守する。

さらに、国及び地方公共団体は、保健、医療又は福祉に関する団体、研究機関、大学、学会、企業等との連携のもと、ICT（情報通信技術）等を活用して、全国規模で健康情報を収集・分析し、効果的な歯科口腔保健の推進に関する施策を実施できる仕組みを構築するよう努める。

## 第五 その他歯科口腔保健の推進に関する重要事項

## 一 歯科口腔保健に関する正しい知識の普及に関する事項

歯科口腔保健の推進は、基本的に国民一人一人の意識と行動の変容にかかっており、国民の主体的な取組を支援していくためには、国民に対する十分かつ確かな情報提供が必要である。このため、国及び地方公共団体が行う情報提供については、マスメディア、ボランティア、産業界、学校教育等多様な経路を活用していくことが重要であり、その内容が科学的知見に基づいたものであり、分かりやすく、取組に結びつきやすい魅力的、効果的かつ効率的なものとなるよう工夫する。

また、生活習慣に関する正しい知識の普及に当たっては、家庭、学校、職場、地域等の社会環境が生活習慣に及ぼす影響の重要性についても認識を高めることができるよう工夫する。

なお、情報提供に当たっては、特定の内容が強調され、誤った情報として伝わるような留意する。

さらに、歯科口腔保健の一層の推進を図るため、6月4日から10日まで実施される歯の衛生週間等を活用していく。

二 歯科口腔保健を担う人材

国及び地方公共団体においては、歯科専門職である歯科医師、歯科衛生士及び歯科技工士並びに歯科口腔保健を担当する医師、保健師、助産師、看護師、薬剤師、管理栄養士、栄養士その他の職員の確保及び資質の向上に努める必要がある。さらに、歯科口腔保健がより円滑かつ適切に実施できるように、関係団体・関係機関等との調整、歯科口腔保健の計画・施策への参画及び当該事業の企画・調整を行う歯科口腔保健を担当する人材として歯科専門職である歯科医師、歯科衛生士及び歯科技工士の確保等に努めることが望ましい。

また、これらの人材の資質向上を図るため、国において総合的な企画及び調整の能力の養成に重点を置いた研修の充実を図るとともに、都道府県において、市町村、医療保険者、地域の歯科医師会・医師会等の関係団体と連携し、最新の科学的知見に基づく研修の充実を図ることが必要である。

さらに、歯科口腔保健の推進には、地域のボランティアの役割も重要であるため、主体的に歯科口腔保健に取り組むボランティアを養成する体制を推進することも重要である。

三 歯科口腔保健を担う者の連携及び協力に関する事項

地方公共団体においては、歯科口腔保健を担当する地方公共団体の職員だけでなく、歯科医師、歯科衛生士及び歯科技工士、医師、保健師、助産師、看護師、薬剤師、言語聴覚士、管理栄養士、栄養士、地域保健担当者、学校保健担当者、介護職員等の歯科口腔保健を担う全ての者が情報を共有して連携・協力する体制の確保・整備に努める必要がある。

医療保険者、医療機関（病院歯科、歯科診療所を含む。）、障害者支援施設、障害児入所施設、介護保険施設、教育関係機関、マスメディア、企業、ボランティア団体等は、国及び地方公共団体が講ずる歯科口腔保健の推進に関する施策に協力するとともに、地方公共団体は保健所、市町村保健センター、児童相談所等を含めた歯科口腔保健を担う関係団体・関係機関等から構成される中核的な推進組織を設置する等、互いに連携・協力して、歯科口腔保健を推進することが望ましい。

特に、口腔・顎・顔面の発育不全を有する者、糖尿病を有する者、禁煙を希望する者、妊産婦、周術期管理が必要な者等に対する医科・歯科連携を積極的に図っていくことにより、歯科口腔保健の推進が期待される。障害者・障害児、要介護高齢者等に対する歯科口腔保健対策の推進に当たっては、地域の病院や主治医を含む関係団体・関係機関等との緊密な連携体制を構築することが望ましい。

また、併せて、産業保健と地域保健が協力して行う取組の中で、全身の健康のために歯の健康が重要であるという認識を深めていくことが望ましい。

なお、災害発生時には、避難生活等における口腔内の不衛生等により生じる誤嚥性肺炎の発症等の二次的な健康被害を予防することが重要である。平時から、国民や歯科口腔保健を担う者に対して、災害時における歯科口腔保健の保持の重要性について普及啓発活動を行う等により、災害発生時に、速やかに被災者への対応が行える体制を整備することが望ましい。

別表第一 歯科疾患の予防における目標・計画

(1) 乳幼児期

目標	健全な歯・口腔の育成	
具体的指標	現状値	目標値(平成34年度)
①	3歳児でう蝕のない者の割合の増加	77.1% 90%
計画	<ul style="list-style-type: none"> <li>普及啓発（歯科疾患、健全な歯・口腔の育成等に関する知識）</li> <li>歯科保健指導の実施（生活習慣、口腔の健康及びう蝕予防のための食生活、発達に合わせた歯口清掃方法等）</li> </ul>	

<ul style="list-style-type: none"> <li>う蝕予防方法の普及（フッ化物の応用、小窩裂溝充填塞法（シーラント）、定期的な歯科検診等）</li> <li>その他</li> </ul>
---

注) 「健やか親子21」では、平成26年までの目標値を80%以上と設定している。

(2) 学齢期

目標	口腔状態の向上	
具体的指標	現状値	目標値(平成34年度)
①	12歳児でう蝕のない者の割合の増加	54.6% 65%
②	中学生・高校生における歯肉に炎症所見を有する者の割合の減少	25.1% 20%
計画	<ul style="list-style-type: none"> <li>普及啓発（歯科疾患、健全な歯・口腔の育成等に関する知識）</li> <li>歯科保健指導の実施（生活習慣、口腔の健康及びう蝕予防のための食生活、口腔状況に応じた歯口清掃方法、咀嚼方法等）</li> <li>う蝕予防方法の普及（フッ化物の応用、小窩裂溝充填塞法（シーラント）、定期的な歯科検診等）</li> <li>歯周病予防方法の普及（歯口清掃、定期的な歯科検診等）</li> <li>その他</li> </ul>	

(3) 成人期（妊産婦である期間を含む。）

目標	健全な口腔状態の維持	
具体的指標	現状値	目標値(平成34年度)
①	20歳代における歯肉に炎症所見を有する者の割合の減少	31.7% 25%
②	40歳代における進行した歯周炎を有する者の割合の減少	37.3% 25%
③	40歳の未処置歯を有する者の割合の減少	40.3% 10%
④	40歳で喪失歯のない者の割合の増加	54.1% 75%
計画	<ul style="list-style-type: none"> <li>普及啓発（歯周病と糖尿病・喫煙・早産等の関係性、口腔がん等に関する知識）</li> <li>歯科保健指導の実施（生活習慣、う蝕・歯周病の予防・改善のための歯口清掃方法、禁煙支援等）</li> <li>う蝕予防方法の普及（フッ化物の応用、定期的な歯科検診等）</li> <li>歯周病予防、重症化予防の方法の普及（歯口清掃、定期的な歯科検診等）</li> <li>その他</li> </ul>	

(4) 高齢期

目標	歯の喪失の防止	
具体的指標	現状値	目標値(平成34年度)
①	60歳の未処置歯を有する者の割合の減少	37.6% 10%

② 60歳代における進行した歯周炎を有する者の割合の減少	54.7%	45%
③ 60歳で24歯以上の自分の歯を有する者の割合の増加	60.2%	70%
④ 80歳で20歯以上の自分の歯を有する者の割合の増加	25.0%	50%
計画	<ul style="list-style-type: none"> <li>普及啓発（歯周病と糖尿病・喫煙等の関係性、根面う蝕、口腔がん等に関する知識）</li> <li>歯科保健指導の実施（生活習慣、う蝕・歯周病の予防・改善のための歯口清掃方法、咀嚼訓練、義歯の清掃・管理、舌・粘膜等の清掃、口腔の健康及びう蝕予防のための食生活、歯口清掃等）</li> <li>う蝕予防方法の普及（フッ化物の応用、定期的な歯科検診等）</li> <li>歯周病予防、重症化予防の方法の普及（歯口清掃、定期的な歯科検診等）</li> <li>その他</li> </ul>	

別表第二 生活の質の向上に向けた口腔機能の維持・向上における目標、計画

(1) 乳幼児期及び学齢期

目標	口腔機能の獲得	
具体的指標	現状値	目標値(平成34年度)
① 3歳児での不正咬合等が認められる者の割合の減少	12.3%	10%
計画	<ul style="list-style-type: none"> <li>普及啓発（口腔・顎・顔面の成長発育等に関する知識）</li> <li>歯科保健指導の実施（口腔機能の獲得に影響を及ぼす習癖等の改善、食育等）</li> <li>その他</li> </ul>	

(2) 成人期及び高齢期

目標	口腔機能の維持・向上	
具体的指標	現状値	目標値(平成34年度)
① 60歳代における咀嚼良好者の割合の増加	73.4%	80%
計画	<ul style="list-style-type: none"> <li>普及啓発（口腔の状態と全身の健康との関係等に関する知識）</li> <li>歯科保健指導の実施（咀嚼訓練、歯口清掃（舌・粘膜等の清掃含む）、義歯の清掃・管理、食育等）</li> <li>口腔機能の回復・向上に関する取組の推進</li> <li>その他</li> </ul>	

別表第三 定期的に歯科検診又は歯科医療を受けることが困難な者に対する歯科口腔保健における目標・計画

(1) 障害者・障害児

目標	定期的な歯科検診・歯科医療の推進	
具体的指標	現状値	目標値(平成34年度)
① 障害者支援施設及び障害児入所施設での定期的な歯科検診実施率の増加	66.9%	90%

計画	<ul style="list-style-type: none"> <li>普及啓発（歯科疾患、医療・介護サービス、口腔ケア等に関する知識）</li> <li>歯科保健指導の実施（家族・介護者への口腔ケア指導、定期的な歯科検診等）</li> <li>障害者・障害児（障害者支援施設及び障害児入所施設入所者以外の者を含む。）の歯科口腔保健状況に関する実態把握及びこれに基づいた効果的な対策の実施</li> <li>その他</li> </ul>
----	---

(2) 要介護高齢者

目標	定期的な歯科検診・歯科医療の推進	
具体的指標	現状値	目標値(平成34年度)
① 介護老人福祉施設及び介護老人保健施設での定期的な歯科検診実施率の増加	19.2% (介護老人保健施設の現状値)	50%
計画	<ul style="list-style-type: none"> <li>普及啓発（歯科疾患、医療・介護サービス、摂食・嚥下機能、口腔ケア等に関する知識）</li> <li>歯科保健指導の実施（家族・介護者への口腔ケア指導、定期的な歯科検診等）</li> <li>要介護高齢者（介護老人福祉施設及び介護老人保健施設入所者以外の者を含む。）の歯科口腔保健状況に関する実態把握とこれに基づいた対策の実施</li> <li>その他</li> </ul>	

別表第四 歯科口腔保健を推進するために必要な社会環境の整備における目標・計画

目標	歯科口腔保健の推進体制の整備	
具体的指標	現状値	目標値(平成34年度)
① 過去1年間に歯科検診を受診した者の割合の増加	34.1%	65%
② 3歳児でう蝕がない者の割合が80%以上である都道府県の増加	6都道府県	23都道府県
③ 12歳児の1人平均う蝕数が1.0歯未満である都道府県の増加	7都道府県	28都道府県
④ 歯科口腔保健の推進に関する条例を制定している都道府県の増加	26都道府県	36都道府県
計画	<ul style="list-style-type: none"> <li>歯科に係る検診の勧奨、実施体制の整備</li> <li>口腔保健支援センターの設置</li> <li>歯科口腔保健法に基づく基本的事項の策定・評価</li> <li>歯科専門職である歯科医師、歯科衛生士及び歯科技工士の配置、地域歯科口腔保健の推進のための人材の確保及び育成</li> <li>歯科医師、歯科衛生士、歯科技工士、医師、保健師、助産師、看護師、薬剤師、管理栄養士、栄養士等の研修の充実</li> <li>その他</li> </ul>	